

木曾地域公共交通利便増進実施計画の改定に関する書面協議の内容について

1. 概要

- 現行計画上、広域幹線と地域内路線を結ぶ結節点については、利用者の待合施設として屋内施設が利用できるものについては既存施設の活用で対応することとしている。
- 待合施設がないか、老朽化している結節点について、施設整備の計画が具体化したため、計画に反映させる。

2. 改定内容

- 次の3結節点について、整備内容・整備による効果を記載

結節点名	整備内容	整備による効果
巴淵	待合施設新設	利用者が荒天時でも快適に待合せできる環境を整備することにより利便性が向上。
黒川ダム	待合施設改修	老朽化した待合施設を改修することにより、待合環境が向上。
バス回転場所	待合施設新設	利用者が荒天時でも快適に待合せできる環境を整備することにより利便性が向上。

- 上記3結節点の整備に必要な資金の額及びその調達方法を記載

結節点名	負担額 (千円)	負担額内訳及び調達先・調達方法 (千円)		
巴淵	7,511	3,755	国	社会資本整備総合交付金
黒川ダム		3,756	町村	自主財源
バス回転場所	4,000	4,000	県	信州型広域バス路線支援制度補助金

3. 改定案

資料1及び資料2（新旧対照表）のとおり。